

大地震で孤立想定、訓練

伊賀広域防災拠点が開所

【伊賀】県の伊賀広域防災拠点が伊賀市荒木の旧上野農業高校跡地に開所し、県と伊賀、名張両市は二十六日、後方支援活動の訓練を実施した。災害時の協定を結んでいる滋賀県、奈良県、自衛隊、トラック協会、消防など二十二機関が参加し、救援物資の受け入れや搬送に取り組み、連携を確認した。



防災ヘリに救援物資を積み込む参加者。伊賀市荒木の伊賀広域防災拠点で。

ヘリ8機、22機関参加



【伊賀】県は二十六日、伊賀市に開所した県の伊賀広域防災拠点の説明会を開いた。西日本からの救援物資や人員の受け入れなどについて、伊賀広域防災拠点の備蓄倉庫を見学する市民が伊賀市で

見学の住民「心強い」

【伊賀】県は二十六日、伊賀市に開所した県の伊賀広域防災拠点の説明会を開いた。西日本からの救援物資や人員の受け入れなどについて、伊賀広域防災拠点の備蓄倉庫を見学する市民が伊賀市で

同拠点は、伊勢湾や熊野灘など沿岸部が津波などで大被害を受けた際、救援物資や救援部隊を派遣する後方からの支援拠点として三月末に完成した。

訓練は南海トラフを震源とした地震(M9.0)がした。(山下三男)

発生し、伊賀市矢持地区が孤立した想定で始まった。陸上自衛隊明野航空学校の大型輸送ヘリをはじめ、滋賀、奈良県の防災ヘリなど八機のヘリコプターが投入され、次々と離着陸して救援物資の輸送、搬送、矢持地区からの重篤患者の搬送に威力を発揮した。救援物資が届くと、自衛隊員や市職員らが内容や行き先別に仕分けした。

開所式で鈴木英敬知事は、「訓練でできないことは、本番でもできない」と日ごろの防災の取り組みを訴え、「災害に強い三重をつくっていく」とあいさつした。

西日本からの支援受け入れ／沿岸部津波時の後方支援拠点に

同拠点は約三・二畝。本部棟▽備蓄倉庫▽荷さばき場▽一時保管場▽ヘリコプターの離着陸場など完備し、自家発電装置や防災行政無線など情報通信機能を備えている。備蓄倉庫には、発電機▽投光器▽防水シート▽簡易トイレ▽エア Tent▽毛布などを備蓄している。

見学した同市四十九町、自営業宮田彰士さん(左)は「家で水や食料を備えているが、量は少ない。大規模な防災拠点ができ、心強い」と話した。